

『 犬と人類 』



「犬がいなければ、人類はとっくに絶滅していたかもしれない」と語る人がある。北海道、旭山動物園の元園長、小菅正夫さんである。小菅さんは、廃園寸前だった動物園を改革、日本最北にして、日本一の入場者を誇る動物園に育て上げた。ペンギンやアザラシが自由に泳ぐ様子を水中トンネルから見ることができたり、ホッキョクグマをカプセルから間近に観察できる「行動展示」を考案、日本中に広めた。

そんな小菅さんは言う。「人類はすべての生き物を食料として利用することでしか、自然との関わりを持てなくなった孤独な存在。その心の隙間に寄り添ってきたのが犬である。人類は犬という伴侶を得て、かろうじて自然とのつながりを維持することができ

た」…犬がいなければ、人類は精神的な綻びを生じて、絶滅していたに違いない…と続くのである。

この「犬がいなければ人類は絶滅したかも」説に深く納得する。私自身も犬と暮らすことで精神の安定をもらってきたし、取材の過程で犬に支えられた人達を数多く見てきた。なかでも戦争中のウクライナで出会ったトムのことは忘れられない。トムは元イギリス軍兵士。祖父も父も軍人という家庭に育ち、16 歳で軍隊に入った。世界中の戦地を渡り歩き、イランやアフガニスタンへも従軍した。が、数年前、PTSD (Post-Traumatic Stress Disorder=心的外傷後ストレス障害) で除隊。部屋から出られなくなり、何度か自殺も試みた。そんなトムを回復させたのは、1 匹の犬だった。軍用犬を引退したジプシーという名の小型犬を預かり、一緒に暮らした。トムはジプシーの世話をしているとき、半年ぶりに笑ったことに気づいた。それまで、さまざまな治療を受けてきたが回復の見込みはなかった。が、ジプシーといることで、もう一度生きてみようという意欲が湧いた。

トムは犬と暮らすことで心の安定を取り戻した。以来、彼は「犬のために生きる」と決意し、リタイアした軍人仲間に声をかけ、「ブレイキング・ザ・チェイン (=BTC)」という動物救援隊を組織した。2022 年 2 月にロシアがウクライナに侵攻するとすぐに

現地へ駆け付けた。フロントラインまで出向き、爆撃でケガをしたり、取り残された動物を次々保護した。

「軍人として訓練を受けているから、戦地で動物を助けられる。なかなかそんな人はいないだろう」とトムは言う。

ロシア軍に一ヶ月近く占領されたキーウでは、放置され、250 匹近くが餓死した犬のシェルターに入り、生き残った犬たちを保護した。ウクライナ中部の町にシェルターを作り、戦地から犬と猫を救助しては運んだ。回復した犬たちは国境を越えて、広くヨーロッパ中にわたり、新しい飼い主の元へ旅立った。

初めて会ったトムは、軍人らしい逞しい体格にそぐわない程、優しく静かな人だった。一緒に会いに行った俳優の石田ゆり子さんも「いつも少し泣いているような瞳の飛びきり優しいひと」と言う。(この様子は「石田ゆり子 世界の犬と猫を抱きしめる イギリス」(NHKBS 2023)で取材しました)

トムはその後もウクライナでの動物保護を続け、2024 年 7 月にはパレスチナのガザ地区に入った。空爆の続くなか、現地の動物愛護団体と協力し、犬や猫だけでなく、破壊された動物園からライオンなども救っている。軍人として国のために戦う人生から、戦地で動物を救うことに転じた。トムのことを思うたび、彼の人生を一変させた犬の力に

感じ入る。犬にはただ人のそばにいてだけで、人の心を安らぐ力があるのだ。

そのような訳で私は、今日も犬と人（時に猫も）をつなぐ現場に取材に出かけている。

ウクライナの逸話については、監督作「犬と戦争 ウクライナで私が見たこと」(2025)

をぜひ、ご覧ください。（自主上映申し込み中、DVD 発売中です）



「BTCのトム」



「犬と戦争 ウクライナで私が見たこと (2025)」

映像作家（TV ディレクター・映画監督）／ハナコプロジェクト代表理事
山田 あかね

山田あかね